



奥田原地区のイチオシ!

奥田原の秋を盛り上げる

～競う!ジャンボかぼちゃ品評会～



▲各家のカボチャを収穫して回る様子。大きいものは二人がかりで運び出します(左が糸原さん)。

◀奥田原交流センター前に並べられたジャンボカボチャ。今年は、約30点が出品され最重量は35.2kgでした。

会場にズラリと並んだオレンジ色の大きなカボチャ。奥田原地区では、11月の文化祭に合わせてジャンボカボチャの品評会を開いています。

平成21年から始まったこの企画は、「アトランチック・ジャイアント」という品種のカボチャを生育し、誰が一番大きい(重い)ものを作るかを競うもの。地域で取り進む秋の楽しみの一つになっています。

企画の始動に携わったのは、糸原安雄さん。「文化祭で何か目新しいことをして盛り上げられないか」と思い、当時流行っていたジャンボカボチャに目をつけました」と振り返ります。そして、自身が部長を務める地区の水稲部と奥田原寿会が共同で品評会を開催することになりました。

毎年夏頃、栽培に取り組む約20人に3本ずつの苗木を配ります。それからはそれぞれの腕の見せ所。畑などに苗木を植え、肥料をやって手入れをします。文化祭の前日に水稲部と同寿会のメンバー数人が収穫に回り、重さを測定。カボチャは文化祭の期間中、展示をします。

「コロナの影響で昨年からは文化祭は縮小して行っていますが、この品評会は続けられています。地区の人たちも楽しみにしていると思うので、これからもこうした催しで地域を盛り上げていけたら」と糸原さんは奥田原への思いを膨らませます。

編集後記

安来市の人口と世帯数 R3.10.31現在

人口合計 / 37,192人
(男:17,900人 女:19,292人)
世帯数 / 14,312世帯

▼13年続けているジャンボかぼちゃ品評会。これまでの作品で最も重かったものは第2回開催時の74・5kg。ちなみに品評会後にカボチャは市内の保育施設や学校に寄贈しているそうです。皆さんのお近くの施設に飾ってあるものは、奥田原の秋を盛り上げた、思いのこもったカボチャがもしれません(旬)
▼ヤスギがスキ♥をスローガンに、番組づくりをする「どじょっこテレビ」。コロナ禍で、例年取材している地域イベントや祭事が中止となる中、独自に情報を発掘し特集や企画コーナーを増強したそうです。今後、10周年を記念した番組を制作するとのこと。どんな番組が放送されるのか楽しみです(一)



●広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
●自治会宛の発送等については、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。